

# 巻頭言

## 「もっと幸せ日本一を目指して」

関市は、岐阜県の中央部に位置し、古くから東西文化の要衝として京都から飛騨に通じる交通の分岐点として栄え、この地に関所が置かれ、「関」の地名の起りになったといわれています。現在では、東海環状自動車道と東海北陸自動車道がつながり、中濃圏域の中核都市「刃物のまち・関」として発展してまいりました。

関の刃物の歴史は古く、鎌倉時代に「刀祖・元重」が関へ移り住み、刀鍛冶を始めたのがきっかけと言われています。刀鍛冶の卓越した技術は今も連綿と伝えられ、関市の刃物産業の中に息づいており、今では、刃物製品のほかカトラリーや医療用メスなど、様々なモノづくりに発展しています。

また、刃物のまちの一大イベント「刃物まつり」は、今年で50回目を迎えます。この節目となる「第50回刃物まつり」に向けて、日本一の刃物のまちにふさわしい「おもてなし」の気持ちを込めた取り組みを行って

おります。この機会にぜひ一度、刃物のまち・関市へ足をお運びください。

関市は、平成17年2月の市町村合併を経て、鳥が翼を広げたような地形状となりました。未来へ向けて大きくはばたく形は、当市の未来を象徴しているかのように感じています。この合併により、緑深い山々や清く美しい川など、豊かな自然という何ものにも代えがたい大切な財産を得ることとなりました。今も美しい姿を見せる通称「モノの池」や関善光寺の「五郎丸ボーズの仏像」など、新たな資源の発見も含めて、地域の宝を見つめる施策を展開しております。

さて、関市の国民健康保険事業の状況は、加入世帯1万2635世帯、加入率36.4%、被保険者数2万2172人で24.7%の加入割合です。世帯数、被保険者数ともに、ここ数年減少傾向にあります。一人あたり医療費は増加しており、医療費抑制は重要な課題です。衛生部門と連携した健康づくり事業の推進



関市長 尾関 健治

と、「特定健診・特定保健指導」の受診啓発に努めています。

医療費適正化対策としては、資格管理の適正化やジェネリック医薬品の推奨に取り組んでおり、保険税については、口座振替の原則化、ペイジーやクレジット納付・ネットバンキング決済の導入により、納付手段の多様化を図っております。

来年度、国民健康保険事業はかつてない大きな制度改革を迎えます。この改革により将来にわたって安定した運営ができるようになるものと確信し、今年度はさまざまな課題解決に向けて現在取り組んでいるところと

ろです。これからも、誰もが安心して住み慣れた地域で生活し、幸せを実感することのできるまち・関市を目指してまいります。

### （ 関市のあらまし ）

#### DATA (平成29年4月1日現在)

- 面積 …………… 472.33km<sup>2</sup>
- 世帯数 …………… 34,739世帯
- 人口 …………… 89,679人
- 国保加入世帯 …… 12,635世帯
- 世帯加入率 ……… 36.4%
- 国保加入者数 …… 22,172人
- 国保加入率 ……… 24.7%



#### 市章



昭和38年7月17日に関市の象徴として定められたもので、「セキ」を図案化し、丸くおさまり、外に向かって発展する意を表しています。

#### 市の木



#### 市の花

